

4	春日井	春日井市立東部中学校	どうき 銅城	ともひろ 倫宏
---	-----	------------	-----------	------------

分科会番号 3	分科会名	社会科教育(中学校)
---------	------	------------

主権者としてよりよい社会づくりへ参画する力を育てる社会科学習

～プロジェクトＴ－自分たちで創る商店街の未来～（中学２年）～

1 主題設定の理由

現代社会はグローバル化や情報化がよりいっそう進展し、AI技術のめざましい発展など、複雑で変化が激しく未来予測が困難な時代である。また、さまざまな価値観をもつ人との相互理解と、困難な課題に対して一人ひとりが主体的にかかわろうとする意識を高めていくことが不可欠である。これからの社会を生き抜く子どもたちには、社会の実態や変化を理解するだけでなく、習得した知識を活用し、見方・考え方を働かせながら課題解決にむけて自分自身で判断し、社会づくりに参画する力が求められている。

そこで研究題目を『主権者としてよりよい社会づくりへ参画する力を育てる社会科学習』とし、めざす子ども像を「社会的な見方・考え方を働かせて自らの考えを深め、社会にすすんでかかわろうとする子」と設定した。

2 本研究でめざす子ども像

社会的な見方・考え方を働かせて自らの考えを深め、社会にすすんでかかわろうとする子

3 めざす子ども像に迫るために必要な能力

- 必要な情報を手に入れ、情報を整理・分析して意見形成に生かす力 (情報活用力)
- 情報や他者の考えを踏まえ、自分の考えを深化させる力 (自己教育力)
- たがいの立場や意見を尊重し、対話を通して納得解を見出す力 (合意形成力)

4 能力を育むための手だて

(1) 切実感のある課題の設定

当事者意識をもって課題に取り組めるように切実感のある課題を設定する。そうすることで、自ら課題解決にむけての意欲を高め、主体的な学びの促進をすることができると考える。

(2) 見方・考え方を働かせるための工夫

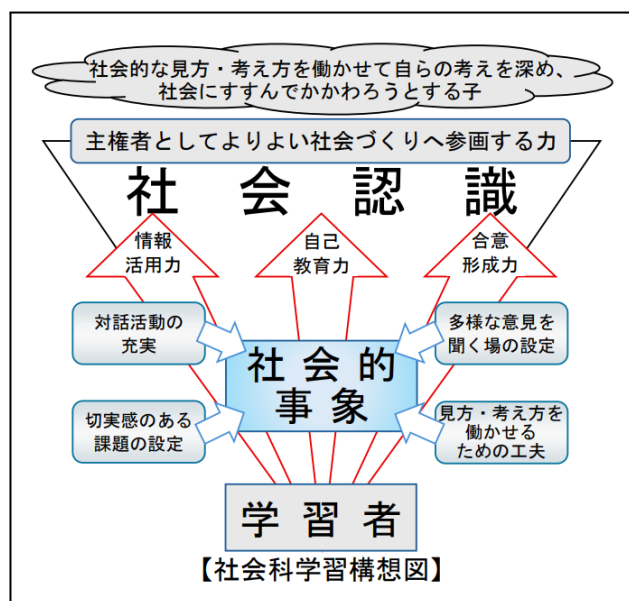
主権者として社会参画する力を育むためには、多面的・多角的に社会事象をとらえ、考えることが重要である。他者と協力して資料を読み取ったりゲストティーチャーの話を聞いたりすることで、当事者の思いを踏まえ、さまざまな見方・考え方を働かせることができるようになり、情報活用力や自己教育力が育まれると考える。

(3) 対話活動の充実

整理・分析した情報をもとに、自分の主張やその根拠となる資料を示しながら対話することで、新たな気付きや視点を得られる。この対話を立場や考えの違う他者と繰り返し行い、何度も自分の考えを練り直すことで、情報活用力や合意形成力が育まれると考える。

(4) 多様な意見を聞く場の設定

子どもが直面する課題に対して、一方向的な見方や知識、表面的な情報だけで判断させるのではなく異なる立場や背景をもつ多様な人々の想いにふれさせる場を設定する。地域の当事者や専門家、仲間との対話を通して、それぞれの意見の背景にある願いや想いの相違、多様な価値観を理解させる。このような場を意図的に設定することで、一方向的な見解に頼ることなく、多面的・多角的に事象をとらえ直し根拠に基づいた「納得解」につながっていき、社会参画に必要な合意形成力が育まれると考える。



5 授業実践例

(1) 単元名 プロジェクトＴー自分たちで創る商店街の未来ー(中学２年)

(2) 単元の目標

ア 地理的な見方・考え方を働かせ、商店街の現状と課題を多面的・多角的に考察し、30年後も持続可能なまちづくりプランを構想し、表現することができる。

イ 地域の課題や商店街にかかわる人々の多様な願いを自分事としてとらえ、主体的にプランを考えることで、地域の未来の担い手として社会参画しようとする態度を育むことができる。

(3) 単元の指導計画

ア 単元設定の理由

少子高齢化やライフスタイルの変化に伴い、全国で地域の衰退が課題となっている。本校の学区にも江戸時代に名古屋と中山道をつないだ「下街道」沿いに発展してきた歴史のある「鳥居松商店街」がある。しかし、近年、賑わいが失われ、シャッター街化が進み、衰退している。

本実践は、生徒にとって身近な鳥居松商店街を教材化し、商店街が無くなってしまいかもしれないという現状に出会う。その上で、商店街を活性化させるために尽力している人々の想いや活動について知ること、自分たちも商店街を活性化させたいという切実感を醸成したい。活性化させるための提案プランの作成においては、まちづくりアドバイザーからの助言や生徒どうしの意見交流を通して多面的・多角的にプランを練り直し、今後の商店街のあり方について考えていく。

このように実際に地域で起きている課題について、地域の方とかわりながら多面的・多角的に解決していくことを通して、未来の担い手として地域の課題を自分事としてとらえ、地域づくりに主体的にかかわろうとする態度を育むために、本単元を設定した。

イ 生徒の実態

事前アンケートの結果から、自分たちの住む地域をよりよくしたいという思いをもつ生徒がとて多く、地域社会に積極的にかわっていきたいと考えている生徒も多いことがわかった。しかし、地域をよりよくするための地域社会へのかかわり方について具体的な方法を思い描くことはできていない。抽出生徒A（以下生徒A）は、課題への取り組みや周囲との意見交流には非常に意欲的である。しかし、発想が抽象的であり、具体性に欠ける。抽出生徒B（以下生徒B）は、さまざまな社会的事象に対して高い関心をもち、自身の考えを周りに伝えることを得意としている。しかし、物事を一面的な見方でしか見ることができず、多面的に考えることが苦手である。

(4) 授業展開（9時間完了）

時	生徒の学習活動
1	身近な地域の課題について考えよう ○日本の諸地域と自地域の課題（鳥居松商店街の衰退）を比較・共有する。 ○商店街の衰退原因や必要とされる機能を考察する。
2	商店街の現状と今後について、商店街と商工会議所の方から話を聞こう ○商店街の方の話から「現状への危機感」と「未来への願い」を知る。
3	○商工会議所の方の話から「商店街の現状」と「未来の商店街のあり方」を知る。 【単元を貫く課題】30年後も持続可能な鳥居松商店街を考えよう
4	まちづくりアドバイザーの方に話を聞いて、プランニングシートを作成しよう ○アドバイザーから持続可能なまちづくりの視点を学び、プランニングシートをつくる。
5	プランニングシートを練り直そう ○意見交流を行い、プランニングシートを練り直す。
6	プランニングシートをもとに提案資料を作成しよう ○プランニングシートをもとに発表するプランを作成する。
7	○友だちやアドバイザーの方と意見交流をしながら自分のプランを練り直す。
8	商店街や商工会議所の方にプランを提案しよう ○作成したプランを商店街の方や商工会議所の方に提案し、意見を聞く。
9	単元のまとめをしよう ○単元の課題についてまとめを書き、振り返りを行う。

(5) 授業実践の記録および資料

〈第1時〉身近な地域の課題について考えよう

「日本の諸地域」の単元で学習した日本の課題が、自分たちが暮らす地域にもあてはまるのかを問いかけた。すると「鳥居松商店街がシャッター街になってしまっている」と答える生徒が多くいた。そこで、昔と今の写真を見比べ、商店街が衰退した理由を考えさせると「少子高齢化が進み、後継者がいないのではないか」などの意見が出た。現在の商店街には何が必要とされているのか問いかけると「地域の人との交流の場」「買い物ができる場としての復活」「商店街の観光産業化」などの意見が出た。今の商店街にそのような機能は無いことに気付いた生徒の「小さい時からそばにあった当たり前がなくなってしまう。商店街がなくなるのはさみしい」という意見に対し「商店街に対して何か自分たちにできることはないか」と発言する生徒が多くいたため、どうしたら商店街を残すことができるのかを考えることにした。そこで、商店街の現状について詳しく知るために、商店街の方や商工会議所の方から話を聞くことにした。

〈第2・3時〉商店街の現状と今後について、商店街と商工会議所の方から話を聞こう

第2時では、商店街で古くから新聞店を営んでいる方と商店街の会長、第3時では、商工会議所の方へのインタビュー動画をもとに情報収集を行った。

商店街の方の話	商工会議所の方の話
【現状】 シャッター街 【課題】 後継者不足 高齢化 【想い】 - これまでつないできた鳥居松商店街を今の形のまま残したい。 - このままだと20～30年後、大人になったときに帰ってきて祭りやまち並みを懐かしむようなふるさとがなくなってしまう。 - 地域のつながりの場としても残したい。	【現状】 シャッター街 【課題】 後継者不足 高齢化 【想い】 - 大型ショッピングモールに勝てない。 「商店街」という形を20～30年後に保ったまま存続するのは難しい。商店街という形にこだわらず新たな形を考えることも必要だと感じる。 - 商店街が具体的なプランをもっていないため、支援のしようがなく困っている。

話を整理すると、現状や課題に共通点があるものの、想いに違いがあることに気付く生徒が多くいた。現状のまま残したいという商店街の方の想いに寄り添って「昔ながらの雰囲気やその地域の伝統を残しながら発展していったほしい」「大型店にはない歴史などの魅力を大切に、住民が集える交流の場をめざして、発展させられたらよい」という振り返りを書く生徒もいれば、商工会議所の方の話に共感し「商店街という形そのものではなく、地域に必要とされる場所にするところこそが持続可能なあり方ではないかと感じた」という振り返りを書く生徒もいた。よりよい商店街にするには、目先のアイデアだけでなく未来を見据えた持続可能性の視点が必要であるとの気付きと、ゲストティーチャーの話を反映し「30年後も持続可能な鳥居松商店街を考えよう」という単元を貫く課題を設定した。そこで、持続可能な鳥居松商店街にしていくにはどのようなプランを考えるべきなのか、実際に商店街を中心としたまちづくりに携わっている方から話を聞くことにした。

〈第4時〉まちづくりアドバイザーの方に話を聞いて、プランニングシートを作成しよう

第4時では、地域の活性化事業を行っている株式会社レジスタの代表の方から、持続可能な鳥居松商店街にするためにどのようなプランを考えるべきか話を聞いた。

まちづくりアドバイザーの方の話（持続可能なまちづくりに向けて）				
当事者意識	しくみづくり	地域の特性の理解	地理的な条件	地域のつながり
自助・共助	継続性・汎用性 公助	歴史的な背景・ 人口など	地形やアクセスなど	コミュニティ づくり

話を聞いて「持続可能な商店街をつくるためには、何度も行きたくなる場所にする必要がある。そのため、商店街の人とお客さんがつながるコミュニティを大事にすることで、人の集まりを継続的に保つことができるかもしれない」と発言する生徒がいた。加えて「30年後も持続可能な商店街」にするためには、地域がかかえる課題に対して自分たちが中心となって解決できるような案を考えようとする姿も見られるようになった。その後、アドバイザーの方の話を参考にしながらプランニングシートを作成した。

〈第5時〉プランニングシートを練り直そう

第5時では、前時で作成したプランニングシートをもとに意見交流を行い、練り直しをした（資料1）。生徒Aは、第4時ではシャッターに絵を描くイベントを行い、安全なまちづくりを行うことを考えていたが、意見交流を通して「イベント費用の捻出方法」や「地域のコミュニティづくり」など財政面への考慮や地域の結びつきを強くすることも持続可能なまちづくりに大切だと考えるようになった。生徒Bは、第4時では若者が集まる場所にするために商店街を改装することを考えていたが、意見交流を行うことで「空いている店の活用」や「出店への補助金制度の行政への打診」など今の商店街の形を残して、自分たちで行政や住む人に働きかけて若者が集まる場所にすることも持続可能なまちづくりに大切だと考えるようになった（資料2）。



【資料1 意見交流の様子】

生徒Aのプランニングシート		生徒Bのプランニングシート	
30年後も持続可能な鳥居松商店街 プランニングシート 地理的な視点 地域環境 プラン シャッターイラスト大作戦 なぜ 閉じてしまったシャッターはただの灰色の壁で夜など怖い。また、街灯も少ないため、夜はとても暗く心配になる。なので、蓄光インクなどで描き道を通るときも安全に通ることができると思う。 誰に 地域住民 そのために 東部中のボランティア部や地域住民などに「シャッターにイラストを描きたい人」という募集ポスターを配り描く。描いた後で、SNSなどに発信してもらう。 誰と 東部中学校 地域住民 市役所		30年後も持続可能な鳥居松商店街 プランニングシート 地理的な視点 地域環境 産業 プラン シャッターイラスト大作戦 なぜ 閉じてしまったシャッターはただの灰色の壁で夜など怖いし、街灯も少ないため、夜はとても暗く心配になるので、蓄光インクなどで描くことで安全に利用できる。 地域の職人さんにも手伝ってもらうことで、地域との結びつきを強くし自分自身で創り出す楽しさを知ってもらうことで後継者不足の解決や未来の産業の発展につなげる。 誰に 地域住民 そのために 東部中のボランティア部や地域住民などに「シャッターにイラストを描きたい人」という募集ポスターを配り描く。描いた後で、SNSなどに発信してもらう。 誰と 東部中学校 地域住民 市役所 体験に料金がかかるようにイベントにかかった費用を回収、小学生以下の子供は体験料を無料にして子供が気軽に体験できるようにする。	
30年後も持続可能な鳥居松商店街 プランニングシート 地理的な視点 人口 プラン 鳥居松商店街を若者たちが集まる場所に！ なぜ 春日井駅周辺や鳥居松商店街周辺は他の地域と比べて人口が多いけど現在の鳥居松商店街は普段の人通りが減少してきている。なので、商店街地域を若者たちが集まる場所にするために、若者が好きそうな大型のショッピングエリアの一部に改装し、モールの中に商店街エリアをつくる。そうすることで若者たちが来るようになり、地域全体の雰囲気明るくなり、地域の活性化につながる。 誰に 地域の人々、春日井の人々 そのために 鳥居松商店街の歴史を残したいから改装する前に写真を撮ったりしてショッピングモールに取り入れる 若者向けに映えスポットを作る 休憩スペースを設置する 誰と 商店街の人々、地域の人々、市役所の人々		30年後も持続可能な鳥居松商店街 プランニングシート 地理的な視点 人口・産業 プラン チャレンジショップ計画 なぜ 商店街地域を若者たちが集まる場所にするために、現在シャッターがしまっている空き店舗や空き地をチャレンジショップとして新規起業家や今からお店を始めたい人に低リースで店を始められるようにすれば若者が集まって商店街としての形を取り戻せるからです。 誰に 地域の人々、春日井の人々 そのために 市に鳥居松商店街活性化のためにチャレンジショップの補助金制度を作ってもら。お店を募集するポスターなどの広告を作る。シャッターが閉まっているところの所有者に話を聞く。 誰と 商店街の人々、地域の人々、市役所の人々	

【資料2 生徒A・Bのプランニング資料の変容】

第5時の生徒の振り返り

- ・他の人の意見を聞き、シャッターアートのように、今の負の現状を逆手にとって魅力に変えていくようなプランを考えると商店街の現状を生かしつつ、再生させることができると思った。シャッターアート以外にも、鳥居松商店街のよさを生かした方法を考えていきたい。
- ・鳥居松商店街を活性化するために必要なことは、地域住民の全世代に必要とされることと、何十年も続けられる持続性だと思った。そのためには今はあまり商店街を利用していない若い世代の人たちが鳥居松商店街に興味をもち、地域をよくするためのイベントなどに積極的に参加してもらう必要があると思う。全世代に必要とされることと持続可能性との両立は難しいと思うけれど、友だちと協力して魅力的なプランをつくっていきたい。
- ・自分は「産業」の視点を大事にしていたが、友だちの意見やスライドを見ると「観光」や「人口」「コミュニティ」などを大事にしている人もいた。複数の視点を取り入れることで、たくさんの人々にとって魅力的な商店街になっていくと感じた。

〈第6・7時〉プランニングシートをもとに提案資料を作成しよう

第6・7時では、自分のプランニングシートをもとに意見交流を行いながら、最終的なプランを作成した（資料3）。その際、自分の考えに根拠をもたせるために、他の商店街の取り組みや統計資料を活用するよう意識したり、交流を通して他の人の視点や活用できそうなアイデアを取り入れたりする姿が見られた。また、課外で商店街を訪問して店主の方々に話を聞き、地域の実情や「まちの声」を反映させた説得力のあるプランを作り上げる生徒もいた。

生徒Aのスライド

プランの設定理由

鳥居松商店街は「シャッター街」という名前が付くほどシャッターが多いが、「シャッター街」というのを逆に取って空店舗をカラフルにしようと考えました。閉じてしまったシャッターは灰色の壁で夜々通る時に怖いイメージがあります。なので、書光インクなどでシャッターにイラスト描き、朝昼晩いつ道を通る時も楽しくなるようにしたいと思いプランを立てました。

地域の職人さんにも手伝ってもらうことで、地域との結びつきを強くし自分自身で創り出す楽しさを知ってもらうことで後継者不足の解決や未来の産業の発展につながる。



具体的なプラン

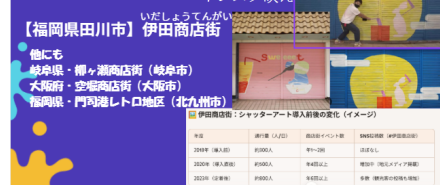
地域住民などにシャッターアートができることをチラシなどで広告し、イラストの描ける店の情報(書はこのような店舗でこのような物を売っていた)などを載せる。イラストを描いた、それをSNSなどに発信して宣伝する。

また、地域の職人さんと一緒に取り組むことで地域との結びつきを強くし自分自身で創り出す楽しさを知ってもらうことで後継者不足の解決や未来の産業の発展につながる。

そのためにすること

シャッターの近くにはペンやスプレーなどを置いておく。描いて良いシャッターを指定する。「6歳未満は保護者がいないと参加してはいけない」と「人が不快に思う絵は描かないでください」という注意事項もつけておく。

実際にシャッターアートで成功した商店街



生徒Bのスライド

① チャレンジジョブ計画

ジョブ達成の地理的ポイント(商業人口)

ジョブ達成理由

いきなりチャレンジしている空き店舗や空き地を「チャレンジジョブ」として新規起業家が今が市街地を始める人に促して店を始めるようにすれば人が集まって商店街としての形を取り戻せると思うからです。



③ ジョブ実現の為に必要なこと

- ・市に鳥居松商店街活性化のためにチャレンジジョブの補助金制度を作ってもらうこと。
- ・お店を開きたい人にお店を開きに来ませんかという内容のポスターを道の店先を作り、まわってもらうこと。
- ・店が開まったらおまわりの所有者に話を聞いて貸してもらえようとするためにお店まわしに行く



プラン実現のために必要なこと (もっと細かく)

- ・土地空き店舗の所有者に土地を貸してもらうために居住権の関係もあるから1年限定で貸してもらう。
- ・契約のときに利益に8%を献出して解決できるならいけどお金より他のものを優先する人もいます。
- ・市が補助金制度を作ってくれるまでの間クラウドファンディングで何とかするもいいし補助金制度が作られるまで待つのもいい。



【資料3 生徒A・Bの提案資料】

〈第8時〉商店街や商工会議所の方にプランを提案しよう

商店街の方や商工会議所の方を招いて、自分たちのプランを発表した(資料4)。商店街の方々からの「商店街にはさまざまな考えをもっている人がいることも踏まえないといけない」「実際にイベントや取り組みを行うことで利益が得られるしくみについても考えないといけない」などのアドバイスをもとに、さらに練り直す生徒もいた。生徒の振り返りをみると「集客する対象についてしか考えていなかった。商店街の方々の意見を聞いたことで、実際に商売を営み、イベントを受け入れる店主側の立場や思い、都合にも配慮する必要があることに気付いた」「自分たちが無償で動くボランティアであれば、あまり費用はかからないと安易に考えていたが、実際には物を作ったり準備したりする段階で材料費や諸経費といった『人件費以外のコスト』が必ず発生するということに気付いた。プランを実現するためには、理想だけでなく予算の計画や管理という財政的な視点からも考えなければいけない」など、当事者意識をもって、さらに商店街の今後について考えていこうとする姿も見られた。さらに、生徒が提案したアイデアのいくつかは、実際に取り入れてもらえることとなり、生徒たちは自分たちのプランがまちづくりに役立つことを喜んでいた。



【資料4 発表の様子】

〈第9時〉単元のまとめをしよう

単元を貫く課題「30年後も持続可能な鳥居松商店街を考えよう」に対するまとめを書いた。

単元を貫く課題に対する生徒A・Bの記述

【生徒A】

30年後も持続可能な鳥居松商店街にするためには、ただ盛り上げるだけでなく、防犯効果などの「客観的なデータ」で安心・安全が守られていて、さらに「お店どうしや街の人たちがみんなで協力し合える商店街」であることが大切だと思います。シャッターアートも一つの店だけで終わらせず、他の企画とつなげながら進化させていくことで、30年後もずっと愛され続ける商店街になってほしい。

【生徒B】

私が考える30年後の鳥居松商店街は「新しく挑戦したい人と、街の人が無理なく協力し合える商店街」です。建物の問題のように難しい課題があっても、貸し出し期間を決めるなどお互いが納得できる工夫を重ねていけば、新しいお店や若者がどんどん挑戦できる街になる。そうやって時代に合わせて柔軟に変化し続けることが、30年後も活気あふれる商店街につながるのだと思う。

その後、単元を通しての振り返りを記述し、まとめとした。

単元を通しての振り返り

- ・ 普段何気なく通っていた商店街の見方が大きく変わった。地域の問題を自分事として考え、解決策を考えることの大切さにも気付いた。これからは、身近なまちや地域の様子にもっと関心を持ち、よりよくするために自分に何ができるのかを考えていきたい。
- ・ 普段あまり意識していなかった自分の住んでいるまちに関心をもつようになった。以前はなにもないまちだと思っていたけど、見方を変えれば活用できる魅力が自分たちのまちにはあることに気付くことができた。今ある問題に対して「仕方がない」と考えるのではなく「どうすればよくできるか」「どう生かせばよいのか」を考える力が身についたと思った。
- ・ はじめの頃はそんなに衰退しているならもう商店街は必要ないということで諦めて住宅地にした方が土地を効率的に使えると思っていたけれど、商店街の人の話を聞いたりプランを立てたりしたら、これまでは考えることのなかった立場の人のことまで考えるようになった。
- ・ まちを復活させるには、新しいものを作るだけでなく、もともとある商店街のよさを生かすことが持続可能性につながると学んだ。一時的な集客で終わらず、地域の人と協力しながら「また来たい」と思ってもらえる工夫を続けることが大切だと思った。
- ・ 今回の学習を通して、面白いアイデアを考えるだけでなく、実際に実現できるかや継続できるかを考えることの大切さに気付いた。人口や地域の特徴を調べ「なぜこの場所に必要なのか」という根拠をもってプランを考える力が身についたと思う。また、グループでの話し合いでは、自分の考えだけを通すのではなく、相手の意見を理解し、取り入れながらよりよい案をつくることの大切さを学んだ。これからも、さまざまな立場の人の考えを大切にしながら、地域の課題を解決する方法を考えていきたい。

(6) 結果と考察

ア 写真や統計資料、聞き取り調査を通して地域の実態を把握するとともに、商店街関係者や商工会議所、まちづくりアドバイザーなど異なる立場の考えにふれたことで、課題について多面的・多角的にとらえることができた。また、意見交流を通して地域の特性や人口、産業、コミュニティなど複数の視点を関連づけながら考えを見直したことで、理想だけでなく継続性や実現可能性を踏まえたプランへと発展させる姿が見られた。このように、多様な立場の方との意見交流を設定したことが、地理的な見方・考え方を働かせ、30年後を見据えた持続可能なまちづくりを構想・表現する力の育成につながったと考える。

イ 生徒たちは商店街にかかわる多くの方々の意見にふれ、持続可能なまちづくりプランをすることで、地域の課題を他人事ではなく「自分事」としてとらえ、当事者意識をもって主体的にプランの立案に取り組むことができた。また、他者との意見交流を踏まえてプランを練り直したり自分たちのプランが実際のまちづくりに生かされる可能性を実感したりしたことは、生徒たちにとって大きな手ごたえになった。実践を通して、自分たちが「地域の未来の担い手」であるという自覚を持ち、地域社会へ積極的に参画しようとする態度が育まれたと考えられる。

(7) 今後の課題

本実践では、鳥居松商店街の実態や地域にかかわる人々の想いをもとに、持続可能な地域のあり方について考えることができた。一方で、商店街の衰退を、周辺地域の土地利用や交通網、人口移動、消費行動の変化など、より広い地域との結びつきからとらえる学習については十分ではなかった。今後は、地域内部の実態だけでなく、他地域との結びつきや社会全体の変化にも着目させることで、地域課題が生じる背景について、より広い視野で社会認識を深められるようにしたい。

6 本研究のまとめ

わたくしたちは、生徒の追究意欲を高められる素材を教材化し、生徒自身が対話を通して考えを深め、価値判断を行う実践に取り組んできた。今年次の成果は、鳥居松商店街の衰退という身近な課題を教材化し、生徒が地域の未来を当事者としてとらえられるようになった点である。商店街と商工会議所、まちづくりアドバイザーといった異なる立場の願いや課題にふれさせることで、単なる一時的な集客アイデアにとどまらず「持続可能性」の視点からプランを練り直し、主体的に納得解を構築・提案する学習を展開できた。これにより、社会的事象を多面的・多角的に考え、よりよい社会づくりへ参画する力を育むことができた。